



グラフィックデザイナー

近藤 ちはるさん

1978年甲府市生まれ
東京造形大学造形学部デザイン科卒 日用品広告などの商業デザインから、映画、演劇などのポスターなどを手がける
2005年JAGDA新人賞受賞 2007年甲府市民文化奨励賞

「物置小屋」の魔法 もの作りの原点とデザインへのまなざし

商品のイメージを創り
メッセージを届ける

近藤ちはるさんは、日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)の新人賞を最年少で受賞し、また、甲府市民文化奨励賞を、これまた最年少で受賞した注目のグラフィックデザイナー。甲府市出身で、東京南青山に仕事場がある。日本グラフィックデザイナー協会は、会員数約2,350名の日本最大規模のデザイン団体。山梨にも会員がいて、昨年

夏には、近藤ちはるさんも出品しての展覧会が甲府で開催された。

グラフィックデザインは、「売りたい商品を、どのようにして売なのか」のコンセプトを立案し、これを「どのような形にし、表現していくのか」を追求していく仕事。いわば、商品のイメージを創り、メッセージを届けるコミュニケーターだ。

ヒット商品も、人気商品も、グラフィックデザイナーの力量に負うところが多い。こころがけることは「伝わるか」「目立つか」「新しいか」。

「文字ひとつとっても、ゴシックなのか明朝なのか、どう組むかによって、印象は変わる」というほど、表現は繊細だ。

作品は「1mm1mmの世界」だともいう。「芸術家というより、職人」で、「自己満足ではなく、コミュニケーションが成立しているか」が問われる。言葉ではうまく伝わらないニュアンスに、こだわり続ける。これまで手がけてきた仕事は、日用品広告などの商業デザインから、テレビ、映画、演劇、イベントなどのポスターと、幅広い。

「売れる商品」の発想 既成概念を吹き飛ばす

近藤ちはるさんの作品は、「変幻自在な発想」と評される。たとえば、芝居のチケット1枚を取り上げても、創意に満ちあふれている。劇団「水族館劇場」公演の際のデザインを、通常のチケットと比較してみると、発想の違いは歴然だ。

まず、形状も、荒々しいテント芝居のイメージや、水を多用する芝居の内容にふさわしく、帆船の帆の切れ端のようであり、テント小屋の破れた布のようでもある。おまけに、表面には、篝火の燃え跡や、雨水が染み込んだ形跡さえあしらってある。

これなら広告宣伝の効果もあり、どんな芝居なのかと、購入者の期待もふくらむ。チケットを手にしたときから、すでに芝居がはじまって

いく心地になる。プレゼントにも気が利いている。「チケットという既成概念を吹き飛ばしたかった」という。観劇の後も、記念に保存しておきたくなる。

近藤ちはるさんの関わった作品は、もっともっと、身近なところにもある。競争の激しいコンビニの食品を手がけてもきた。たとえば「おにぎり」。「高級志向というコンセプトに基づき、包装を、従来のセロファンから和紙にするなどの創意工夫」をし、「具材の品質、美味しさを表現」するためのパッケージ、ポスター、POPをグレードの高いものに統一した。

制作にあたっては、市場の調査からはじまり、競争店との差別化を図る。母親の眼差しにもなり、子どもの背丈にもなり、若者の嗜好も、配慮する。デザイナーは、発信者であるとともに、よりよく生活者の代表であることが求められるようだ。

感性を育んだ原点

物置小屋の不思議な世界

甲府市の東部で生まれ、高校時代まで過ごした。祖父、祖母、両親、妹二人に囲まれた三世大家族。山が近く、四季に恵まれ、葡萄畑もある。「母によると、幼い頃、一番好きだった遊びは、チラシの絵をハサミで切り抜くことだったそうです」。

三世大家族だけに、物置小屋には古いアルバムや古書、生活用具、衣類などがあり、やがて、物置小屋で、秘密の時間を過ごすようになった。わが家の生活史がたどれ、「もうひとつの教室」になった。競争が苦手な、内気な子どもだった。

古いものは、子どもにとっては「発見」で、傷んでいる衣服や、布



地を組み合わせ、活用し、バッグや服をデザインするようになった。古いものが、魅力ある姿に変身していくのがうれしかった。ミシンも上達した。「もの作りに夢中となり、中学時代は、ファッションデザイナーが憧れ」だった。ひとりで、せっせと、スタイル画を描いていたという。

甲府第一高等学校では、理系コースで、アーチェリー部に所属、筋肉トレーニングなどもし、青春を謳歌していた。しかし、「もの作り」こそ自分の道だと、東京造形大学造形学部デザイン科に進学した。不思議な物置小屋は、ひとりの少女を、個性豊かに育み、いつか「魔法」をかけていた。

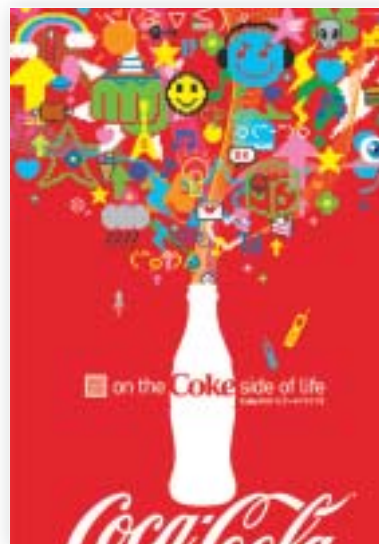
近藤ちはるさんの世界



劇団「水族館劇場」ポスター
蝶が導いていくストーリー



劇団「水族館劇場」チケット
既成概念にとらわれず、芝居をイメージ



コカコーラの世界キャンペーンポスター



イラストレーター個展「フジモト・ヒデト展 LIFE」ポスター
展示会のタイトル「LIFE」をマンションの間取りで表現

デザイン事務所の仕事は、深夜におよぶことがしばしばで、土曜日曜もない。展覧会めぐりも、ままならない。したがって、いまは、甲府に戻れるのは年に2、3度。「常に、新しい仕事を目指したい。才能や、ひ

らめきは、初動の大きな力となり得ますが、それを活かすもコロスも自分次第なのではないでしょうか」。母親の食事と、葡萄の味が、しきりに恋しいときがあるという。

〔構成：三神 弘〕

表紙の解説 ヤマセミ



生きとし生けるものが、過酷な冬の眠りから覚める早春の笛吹川の朝、それまで、淵の底に潜んでいた魚たちも、水の温かみに誘われて、銀鱗を躍らせながら水面近くに集まってくる。そんな長閑さを破るかのように、突然、川上の方から「ケッ、ケッ」と鋭い鳥の声が響いてきた。この川の主であるヤマセミの声だ。その直後、澄んだ羽音とともに一羽のヤマセミがブラインド（野鳥撮影用テント）の正面に突き出たカワヤナギの枝にビタリと止まった。

全身が純白な地に黒の鹿子模様が朝日にまぶしく光る。頭の冠羽が兜を被ったように逆立って見えるのは若鳥の証だ。

野鳥の中でも一段と警戒心が強く、人影のある場所には全く近寄らない孤高な鳥だが、隠れている私に気付かないのは、水面を泳ぐ魚影に気を取られているからだろう。微動だにせず水面を凝視していたと思ったら、次の瞬間には矢のような速さで水中にダイビングして鋭い嘴で魚を捕らえ、元の枝に戻った。その間僅か数秒、息を呑むような敏捷さに全身が釘付けになる。



明るさを増した日射しが、ヤマセミの勇姿を一際クローズアップして、あたりに命の輝きを広げていった。

やまなし野鳥の会会長
日本野鳥の会甲府支部長 依田 正直

「MUH」vol.38 2008.04.01

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・赤尾肇・青柳友昌・樋口明美・齋藤慶子・雨宮千鶴子

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男／岩間新太郎／千野和美／荻野由香／宮塚利雄・杉村聡／杉田陽子

浅川毅・標克明・永田宏

印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate（仲間）Union（結束）Harmony（調和）の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

自慢の一品



「金太^{いちもつ}に一物」

その昔、といっても江戸時代のことだが、そそっかしい男はいた(いや、江戸に限らずいつの時代にもいることはいるのだが)。

男を仮に金太と呼ぼう。

その金太。ある武家屋敷の仲間(「なかま」ではなく「ちゅうげん」と読む。身分が武士と小者の中間だったので、こういう表現になる)をやっていた。仲間は、江戸時代のハローワークのような機関を通じて雇われた。

実は江戸時代も後半になると、武家屋敷にも金が不足してくる。そこで、必要な時だけ仲間を雇うようになった。

金太もそうした一人。出身は甲州は谷村。今の都留市付近である。この辺りからは江戸に出て働く者は多かった。

金太には、力があって我慢強いということ以外に何の取り柄もなかった。

ある日、金太の殿様が友達の家で自慢話をした。二人は「俺の方が」と意地になり、その結果家臣の「自慢の一品」を見せ合おうということになった。

さて、家老が家臣を集めて「何か自慢はないか。我慢

江宮隆之

の一品はないか」と尋ねた。家臣たちは、戸惑ったが、あれやこれや自慢の一品を出してきて並べた。だが、いかにもありきたりのものばかり。とてもこれでは太刀打ちできない。

すると、最後に金太の番になった。「何か、自慢の一品はないか」。問われて金太は、しばらく考えていた。

「あります。あります。あるでございす」。谷村にいたときからの自慢の一品だという。家老は、それを持っているのか、と聞く。金太は「もちろんでさあ。毎日持って歩いていますあね。誰でもこれを見せりゃあ、びっくりこいて、ひっくり返るだよ」。

喜んだ家老は、さあここに出せ、と迫る。金太は、ここではちと困る、と照れる。「構わぬから出せ」と家老。押し問答の末に、金太はおもむろに着ていたものを脱いで、ふんどしまで取った……。

後は、ご想像にお任せしたい。

付け加えると、金太は家老の言葉を「自慢の一物」と間違がって聞いてしまったのだった。あはは。

あえて自慢の一品としよう

私は、元来所有欲には疎く、我慢できる一品は、と訊かれても返答に窮してしまう。料理でもできれば「おほうとう」などと、はぐらかすのだが。それでも何かないものかと、自分の部屋を眺めまわせば、古い使い捨て同様にってしまったカメラに目が止まる。10個以上はあるが、そのうち祖父が持っていた米国コダック社の蛇腹のカメラは1913年製で、自慢の、といたいところだが、表面の皮が剥げ、蛇腹にも小さな傷穴があって、これではガラクタ同然、自慢というのには無理がある。若かりしころ、日本縦走で乗り回した自転車なら、これぞ大活躍してくれた我が青春の自慢の一品ということになるのだが、その後、新しい自転車に換えてしまって今は無く、実績のない自転車では自慢にはならない。作家の大江健三郎とお会いしたとき、私の名前付サイン入りの「ヒロシマ・ノート」(岩波新書)をいただいた。我慢ではあるが、私の一品などとしてしまったなら大江健三郎に悪いような気がしてしまう。

さて、ここに正真正銘、私が撮った1枚の写真がある。

古屋久昭

うかつにも撮影年月日を書いておかなかったり、当時の日記を探す暇が今はないので19××年ということにしておこう。その年の夏、後楽園球場での巨人阪神戦のナイター観戦の募集があり、野球にはあまり興味もない私だったが、友人の強い誘いに乗って、初めてナイターというものを観に行った。巨人が1対0で7回まできたところで、私はスコア板を見ていて気づいたのである。なんと巨人の選手9人のうち7人までが名前に「田」の字を付けていたのである。7高田、4上田、5富田、9柳田、8柴田、2吉田、1倉田である。ちなみに、3王、6河埜というオーダーであった。おまけに阪神にも、2田淵、H藤田、6野田、1上田、と4人が「田」を連ねていた。両軍合わせて11名というおそらく前代未聞の珍事ならぬ珍字試合となった。このとき、私のほかにもこのことに気づき、さらにシャッターまで押した人がいたかどうか不明だが、この写真、貴重な1枚であり、それゆえ、あえて私の自慢の一品といわせていただこう。

甲州土蔵錠

本誌の原稿依頼の文書を見て、おや?、と思った。今回の題は「自慢の一品」とある。「逸品」の間違いではないか、でも…自慢の「ひとしな」という意味なのかも知れない、編集部に正してみようと思っているうちに締め切り日が来てしまった。

さて、と胸に手を当てて考えてみる。自慢の逸品も一品も、身辺には心当たりがない。この言葉がふさわしいのはテレビのお宝番組に出てくるような、何百万もする書画骨董のたぐいだらう。わたしの身辺にあるのは、逸品どころか粗品ばかりである。モノがなければ原稿が書けない。進退きわまって古戸棚を探っていたら、サビだらけの鉄のかたまりが出てきた。何であるかを知り、わたしは躍り上がりたい気分になった。これぞまさしく、わが逸品といえるものだった。

20代の終り「甲州庶民伝」というラジオ番組の原稿を書く仕事が与えられた。県内を歩き、おもしろい人物、波乱の生涯を送った人などを取材、それをもとに人生を物語にし、アナウンサーが朗読する形式のものだ。甲州の風土が

幻の50フラン紙幣

フランスのリヨンに住むまだ見ぬ親友、ジャン・アレン・サルトルからの初めての贈り物、『Le Petit Prince』(『星の王子さま』)が送られてきたのは、1965年の6月であった。今から43年前のことである。ということは、われわれは40年以上にわたってペンパルであり続けたわけだ。

かれが初めて我が家へ訪れたのは、1998年。ふたりで富士山へ登り、5合目の小御嶽神社で、ジャンは2枚のお札を買った。「1枚は君に、1枚はぼくのもの。ふたりの友情の記念にしよう」と。わたしはクリスチャンなので、神社のお札には抵抗があるのだが、今書斎の壁に飾ってある。爾来ふたりは日仏を往復し、互いの友情を深めあった。

先日なにげなく『Le Petit Prince』を開いたところ、星の王子さまの挿絵と額の禿げ上がった中年男性の肖像が印刷された、50フラン紙幣がはらりと落ちた。いつものことか忘れてしまったが、ジャンが送ってきたもので、「君はサン＝テグジュペリのファンだったね。じつはか

岩崎正吾

生んださまざまな人物、奇人変人も登場、番組は好評で後に上下2巻の本になった。

わたしは全体のおよそ3分の1を担当したが、その中で出会ったのが「錠前づくり」の職人、中山藤吉さんだ。当時70代の半ば、すでに50年以上の経験を持つ。中山さんの錠前は「甲州土蔵錠」と言うのだそうだが、どこが甲州式なのかよくわからなかった。すでに土蔵の錠はほとんど死物となっていた時代だ。跡継ぎの息子さんは戦後急速に普及したシリンダー錠という鍵の仕事で飛びまわり、藤吉老人は店番をしながらコックリコックリ居眠りをしていた。

取材を終え、酔狂な気持ちを起こしたわたしは、藤吉さんに甲州土蔵錠を一式注文した。おそらくこの錠は、この人とともに死に絶えてしまうだろうと思えたからだ。釘も鉄板に刻んだ花模様もすべて手づくり、外から抜かれないよう釘の頭は巧妙に隠されている。ロックの仕掛けも備えていて、伝統の技の見事さにわたしは舌を巻いた。

さて、こうした逸品なら他にもまだあるが、編集部からは一品といわれているからやめておこう。

佐藤眞佐美

れはリヨンの出身で、今度50フラン紙幣の肖像になった。記念に1枚贈る」と説明があった。

それからいくばくもない1995年にヨーロッパ連合が成立し、ユーロが統一通貨となった。サン＝テグジュペリの50フラン札はわずか数年流通しただけで姿を消した。別に貴重というほどのものでもないし自慢になるものとも思えないが、小御嶽神社のお札と共に、思い出深い一品である。

ジャンと音信が途絶えて8年たつ。最後にかれと会ったのは2005年の4月、古代洞窟壁画が眠るラスコーを訪ねる途中だった。「病院へ通っているが、君の血液の三分の二はアルコールだ、と医者にいわれた」、笑うかれとふたりでワインを空け、エスカルゴを食い、モスクワ空港で買ったウォッカを空にし、翌朝別れた。それが40数年文通を続けた友との最後の晩餐だった。かれはわたしより4歳上で独身、身寄りがいない。50フラン札をみつめていると、目がにじんできた。まもなくわたしもその歳になる。

PROFILE

江 宮 隆 之
えみや たかゆき

1948年増穂町生まれ。
作家。第13回歴史文学賞、第8回中村星湖文学賞受賞。代表作に『白磁の人』など。最新刊は『真田幸隆』(学研M文庫)最新刊「二人の銀河鉄道」「影法師大江戸瓦版始末」

古 屋 久 昭
ふるや ひさあき

1943年御坂町生まれ
日本現代詩人会員
日本現代詩歌文学館評議員
詩集に「落日探集」ほか。童謡集に「虫らしく花らしく」エッセー集等

岩 崎 正 吾
いわさき せいご

1944年甲府市生まれ
作家 山梨ふるさと文庫代表 現在 1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようと奮闘中
また インターネット上で作家 出版活動しようとして 今春新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され 同時に『探偵の秋』が文庫化される

佐 藤 眞 佐 美
さとう まさみ

1939年北海道生まれ
日本児童文学者協会
日本洞窟学協会会員
著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバー』(草炎社)『山梨の童話』(リブリオ出版)など

日本人と危機意識

— 黄砂と農薬入り冷凍餃子事件の教訓 —

山梨学院大学 経営情報学部教授 宮塚 利雄

以前本欄で「段ボール入り肉まん」のことを書いたが、今回も「農薬入り冷凍餃子」にまつわる話である。日本にとって中国は遣隋使や遣唐使の時代から往来があり、さまざまな文物が中国からもたらされてきた。

しかし、近年は中国から持ち込まれるもののために、日本と中国の関係がギクシャクする事態が生じている。身近な例の一つ目は、3月に入り西日本から関東、東北南部にかけて黄砂が観測されるようになった。黄砂は、中国大陸の内陸部にあるゴビ砂漠で巻き上げられた砂が、偏西風など上空の風で飛来し、空が黄色くかすんで見える現象である。問題は黄砂に有害な硫黄酸化物などの大気汚染物質が含まれており、黄砂により視界が悪くなるだけでなく、日常生活にさまざまな影響を与えている。

日本以上に黄砂の影響を受けているのが韓国で、ソウルに留学している長女からの電話によると、3月3日には南東部の幼稚園と小学校に通う児童の保護者に対し、子供たちを自宅待機させるように要求し、学校などを閉鎖する事態となったという。韓国では毎年この時期に中国から飛来する黄砂により、多数の死者と数十億ドル規模の損害が出ているというが、日本の損害状況はどうなっているのだろうか。

黄砂は甲府でも観測されているが、花粉症に悩む筆者にとって、黄砂は油断できない存在であり、外に出る時はマスクを常用しているが、この程度で黄砂からの被害を防げるのか、心もとない感じもする。ところで黄砂によって周辺の国々が被害を被っているのだから、当然中国はこれらの国に黄砂についての情報やデータを提供すると思っていたら、「気象観測データは国の安全と利益に関わる機密情報として、あらゆる気象観測データを国外に持ち出すことを禁じた法律『気象局十三号令』を施行した」として、データの提供を拒否している。中国は日本の政府開発援助(ODA)の無償資金協力で、黄砂観測網を充実させる計画を中止したのである。

中国から入ってくる物でもう一つ物議をかもしているのに、「農薬入り冷凍餃子」がある。中国で製造された冷凍餃子に

有機リン系殺虫剤のメタミドホスが混入されており、これを食べた人が下痢・嘔吐を起こした。5歳の女兒は、意識不明の状態に陥って病院に担ぎ込まれ、1週間の人工呼吸をして一命を取り止めた。この餃子を作った中国の天洋食品の工場長は、きれいに掃除した餃子工場に日本記者団を招いて、製造、包装、梱包の全行程を見せたのち、今回の農薬入り冷凍餃子の件で、「経済面の損失だけでなく、会社の名声も大きく傷つけられた」と言い、会社の責任を認めないばかりか、「わが社こそ被害者」と言った。

中国は「他国を謝らせて」も、自国は「謝らない」国とはよく言われるが、今回の事件は「謝る」「謝らない」という次元の話ではなく、日本人の食料基盤がいかに脆弱であり、食料問題に対する危機感がいかに希薄であるかということ、暴露したのである。日本のように一日中店が開いていて、好きな時間に行って、お金さえ払えば食料(食糧)を自由に入る国は、世界中広しといえどもそう多くはない。

日本人の多くは自分の国が「飽食国家」と思っているだろう。しかし、これは食糧事情の実態を知らない人の、甚だしい錯覚である。筆者は北朝鮮問題を研究している端くれの一人であるが、北朝鮮の「慢性的な食糧不足」の実態を知っているだけに、今回の事件ですぐによぎったのは、「日本の食糧自給率」だった。

日本の食糧自給率は39%(カロリーベース)に過ぎないのである。したがって酷な言い方をすれば、日本人は食料の6割以上を諸外国から「与えられて生きている」国なのである。しかし、このことを実感する日本人は少ないだろう。北朝鮮の人民ならば、1日3食どころか、1食にも事欠く日があり、しかも、外国から食料(食糧)が援助されていることを実感しており、「食べること」の重大さ、尊さを知っている。確かに日本は世界第2位の経済大国であるが、こと食生活に関して言うならば、アメリカと中国に大きく依存しているのが現状であり、日本人の「生殺与奪」はこの2国に握られているのである。今回の事件は中国を咎めるだけでは解決しない。



ローカル線にのって、のんびり鳥を探しにいくのも楽しい。

2月で5歳を迎えた息子は、物心ついたときから、動植物好き。出生地山梨では、八ヶ岳の牧場へ行くと、いつまでも動物の動きを飽きずにみていたものでした。動物園へ行けば、開園から閉園までいても時間が足りず、池に亀が泳いでいれば、何時間でも餌やりが出来る程。現在の転勤先仙台は、緑豊かといわれても、住まい周辺は自然に乏しく、あるのは裏の小さな田んぼだけ。小さな田んぼでカエルやイナゴ、トンボと遊ぶのが登園前後のささやかな楽しみとなっていました。

ところが稲刈りが終わると、生物たちはすっかり姿を消し、たちまち枯れ野に。次は何を身近な楽しみにさせようか。しばし途方にくれる中、八ヶ岳へ行くと必ず立ち寄る、俳優の柳生博さんご一家の営むお店で、一冊の本に出会いました。「野鳥図鑑」です。この本には、日本で見かける身近な野鳥を、海、森林など場所別に紹介しており、鳥の生息の時期も記載されていました。あまりにも身近すぎて気づかなかった野鳥の存在。通勤族として全国を移り住む中、どこでも楽しめる事を山梨で発見出来た事に、更に喜びが増

野鳥とともに

エッセイスト
深谷 百合苗

しました。

幸い自宅から車で10分程走ると、定期的にガイド付きウォークをして下さる自然観察の森があります。冬枯れの森とはいえ、そこは野鳥の発見の宝庫。川や沼へ出向くと、冬、仙台界限には白鳥が飛来しています。いつのまにか息子の交友関係にも、野鳥に詳しいベテランの専門家が増え、あちらこちらの探鳥地へと足を運んでいます。

観る、聴く、調べる、歩くだけ。寒さを感じれば、暖かいココアを一杯。そしてまた観察。小腹がすくと、おにぎりにインスタントのけんちん汁にお湯を注ぐ。少し直売所まで足を伸ばし、地元の産物をおやつ代わりに戴く。手軽な日帰りキャンプの気分です。お金のかからぬ実に身近な遊びであり、学びの場であり、運動でもあります。

「春の匂いがする」とは、最近の息子の言葉。鳥のさえずりが聞こえ、白鳥が少しずつシベリアへ飛び立ってゆく気配に、春の到来を感じる今日この頃です。

春と共にシベリアへ旅立つ白鳥（宮城県伊豆沼より）



ボクのやまなしフィールドミュージアム05

南部、西行公園で壮大な富士川ジオラマを見る

南部はあたたかい

富士川地域・身延線沿線観光振興協議会の仕事で、「富士川沿線観光ガイドブック01、02」をつくらせていただいた。その関連で富士川沿線の、特にこれまでボクラが取材してなかった、南部富沢地域の風土に触れる機会を持ちました。県の最南端ということもあり、あたたかいんだろうなと思っていましたら、本当にあたたかかった。そのまんまです。あちこちに茶畑はあるし、そうしてみると山の形、樹木の形も心なし異なるように思えます。何となく、真ん丸い。先日、沖縄でのガイドブックづくり講座の折、むらの方が、「本土」と同じ樹木でも育ち方がちがうから樹型もちがうんだよ、と教えてくれたのを思い出しました。

先発隊で下見に行ったメンバーの「ハセエリ」からメール。「西行公園からの眺めがすごいですよ!」。その後も、「ここから富士山が見えるんですよ!」、ハセエリから次々といささかコフン気味のメールが届きました。

すごいジオラマだ

本取材でその光景を目のあたりにした時、やはり「すごい!」と思わざるを得ませんでした。つづいて、「友の会のみんなにも見せてあげたい!」そう強く思ったのです。そもそもこの西行公園はどこにあるのか?というと、南部町役場をめざし、その先のトンネルを越えたすぐの右側に上る道を、西行峠に向かって進みます。相当急な坂道で

すが、車で西行公園まで行けます。遊具などがおかれている公園のさらに上に、西行庵という施設があり、そのさらに上の広場から、「すごい」ジオラマが見られるのです。

そこまでの坂道がかなり急なのですが、竹林なども風情があってすばらしい。ボクの頭に浮かぶことは、友の会の皆さん、ここを上がれるだろうか?という疑問。しかし、いやこのくらいならお茶の子さいさいだな、うちみなさんは健脚ぞろい。まちミューのツアーは、たとえバスツアーでも、けっこう歩かされるぞ、そこがいいんだぞ、という感じはもう行き渡っているわけだからな、と、ボクの思いはそこにたどり着きました。

盆中の富士

こうして、まちミューバスツアーは実施されました。そのジオラマ風の光景は、ほら、こんな光景です。ちなみにこの公園の魅力は雄大なパノラマが見られるだけではありません。振り返ると、山並みの間からぼっこりと白いかき氷みたいなお山が見えます。なんとこれが富士山の頭。これこそが「盆中の富士」。大正時代、紀行作家・大町桂月はここを訪れ、すばらしい、「盆中の富士」だと絶賛した記録が残っているのです。地元のみなさんは「シャーベット富士」とも呼んでいるそうで、これも面白いネーミングだと思いました。

そうそう、肝心の西行さんですが、彼が残した歌も歌碑として残されています。「風になびく富士の煙の空に消

山本育夫

えてゆくえも知らぬわが思ひかな」。西行さんは文治2年(1186)に京都から東国行脚の旅に出たといわれています。駿河から甲斐に入国してこの峠のふもとにしばらく住んでいたとも伝わっています。ボクラには今も残る細い古道を、西行さんがひとりで歩いていく後ろ姿を想像する自由が残されています。この古道は、日蓮聖人や武田勝頼討伐の徳川軍も通った道、歴史を偲ぶ重要な道なのです。

国重要文化財もある

この公園には珍しい石龕(石でつくられた厨子)があります。このスタイル、山梨ではあまりお目にかかったことがないのですが、内部には馬頭観音と聖観音が祀られています。付近には「南無妙法蓮華経」と刻まれた石像物もあり、かつてここには日蓮宗の寿量坊があったそうです。

最後にもう一つ、富沢おそるべしと思わせたお寺を紹介しておきましょう。「甲州夏草道中」の一行が発見したお寺、最恩寺です。昭和12年(1937)に一行はこの寺の仏殿を見て驚嘆し、紹介し、一躍脚光を浴びました。現在は国の重要文化財になっています。室町時代中期の建物で、東日本の禅宗様の遺構の中でも最古のものだそうです。

山本育夫:ミュージアム・マガジン・ドーム(DOME)編集長/アートマガジン・エル・アール(LR)編集長/まち[見物]誌ランデブー編集長/特定非営利活動法人つなぐ代表理事 中央公論、美術手帖、週刊朝日などに執筆。大学や美術館などでの講演も多数。美術品観察学会のメーリングリスト主宰。参加希望者はyamaiku@mxh.mesn.ne.jpまで、参加費無料。



西行公園からは雄大な光景がみられる



武田信玄・勝頼に仕え火中に泰然と寂した
臨済宗関山派の傑物

快川 紹喜

かいせん じょうき

上野 晴朗

臨済宗関山派の傑物で恵林寺の山門樓上に壮絶な死をとげた快川紹喜が、武田信玄の菩提寺恵林寺に入山したのは、天文23年(1554)のことであった。このおりには約1年あまり居ただけで、美濃の崇福寺に帰山してしまう。

そして信玄の熱心な懇望によって、ふたたび恵林寺に入山したのは、永禄7年(1564)11月のことであった。以後信玄と深く交わり、その学問・信仰の無二の師となった。年齢的に20歳快川の方が年長だったので、信玄にとって恰好の師だったのである。

快川紹喜は文亀2年(1502)美濃国に生まれた。同国の守護土岐氏の一族であったという。同国の天衣寺の隠峰和尚によって出家し、のちに長良の崇福寺仁岫和尚のもとに入って修行、仁岫の法嗣となり、南泉寺を開創した。また京都妙心寺にも住している。

その風貌は精悍、俊秀に富み、いかにも明晰、知謀があふれている。その行動もまた精気に満ち、意気盛んなところがあり、その偈や漢詩文を見ても、いかにも禅僧らしい熱情と、獅子吼する奔放さが見られる。まさに意気天を衝く個性の持ち主であったといえよう。そんな快川を、甲



快川国師画像（恵林寺蔵）

軍の精鋭を率いた信玄は限りなく尊敬し慕い、招いたのであった。

信玄はとくに臨済宗妙心寺派(妙心寺開山関山慧玄の名をとり、関山派という)に皈依した。とりわけ厳しい禅風と学風が関山派にはあり、当時多くの公家や武士が妙心寺を慕ったが、信玄もまたその禅風に傾倒したのである。軍略あるいは政治の悟りと、禅の悟りは表裏一体であるので、とりわけ共感が湧き、たえず死と対決せねばならない人生上の解脱に、禅僧の教えはとくに有意義だったのである。

快川は天文23年(1554)入山のとき、信玄に請われて歴史上名高い



恵林寺山内全景

孫子の旗の文字「疾如風 徐如林 侵掠如火 不動如山」の四句を、旗をつくるために揮毫してやった。まさに「孫子四如の旗」の書風は快川流なのである。この旗に甲軍の精鋭がみな奮い立ったのであるから、快川和尚はまさに戦国の歴史を動かした裏方であった。

永禄4年(1561)9月の川中島大合戦のあと、快川は美濃崇福寺から「去年河中島に百戦百勝、以来甲軍の威風天下に遍く、武名日東に高し(中略)、益々是れ関山一派の再興の基か、至祝至禱、越軍の残党、其の名有れども無きがごとく憐むべし……」と、信玄に書き送っている。ここにも禅僧の気概が横溢している。



快川和尚書状案 信玄に宛てた手紙の草稿

天正10年(1582)3月、武田家が滅びたとき、織田信長の先鋒信忠軍は、かつて江州(近江の国)の大名佐々木承禎を恵林寺がかくまったことを理由に、恵林寺を攻め、織田の軍門に従うことを迫った。しかし快川和尚はこれを突っぱねたので、激昂した信忠は信長の命で、快川とそのほかの僧侶を、恵林寺山門樓上に追い上げて焼き殺してしまった。

同じ同門の禅僧たち、法泉寺の雪岑、東光寺の藍田、長禅寺の高山なども一緒にこの難に遭った。いずれも当代一流の名僧善智識たちで、焼き殺された修行僧は百余名もいた。

快川はこのとき、燃えさかる炎の中で、

安禅は必ずしも山水を須いず

心頭を滅却すれば火も自づから涼しの偈を唱え、泰然として火定に入ったという。その壮絶な死は、まさに武士の割腹自殺と同じ行為である。それは同じ信長によって実行された叡山焼き討ちと、形は同じように見えるけれども、受難側の歴史と価値はまるきり違うのである。

叡山焼き討ちの方は、破戒乱行の限りをつくした山法師と、それに追隨する信徒、俗人まで巻き込んで焼き払われたのであるが、関山派の僧達とはまったく逆の厳しい禅風の中におり、そこには生半可な俗人を一斉寄せつけようしない孤高の歩みを誇りとする気風があった。それゆえにこそ、たとえ戦争といえども、織田信長などに唯々諾々となびかない、生死超脱の境地を持ち合わせていた。

ところが織田信長の方はまた、そうした仏教の教え、なかんずく禅風



恵林寺山内にある快川の有名な詩文

の教義の伝統が気に入らない。信長という人物は、結局、仏教勢力を強引に押さえ込み、既成の一切の宗教的権威を認めようとしないうちに、新しい価値が生まれると信じていたのである。

だからその宗教的権威を潰すために、焼き殺すという手段に訴えたのであろう。しかし自らを火定三昧に投入した快川の方は、かえってそこに新しい生命を得て、関山派の意気を日本歴史の上に永久にとどめたのである。

現在恵林寺に詣で、重要文化財の四脚門(赤門という)をくぐり本堂の方に進むと、復元された山門につきあたる。三門と呼ばれ、二階楼造りでその脚の両袖に有名な快川の偈がかかっている。礎石の状況から見ると焼き討ちをくった三門はもっと壮大なもので、快川国師はその二階楼の炎の中で、座中にひかえていた末宗と湖南の二人の若い弟子を招き、袈裟を脱いで火中を逃れ、仏祖の正脈を絶やさぬよう遺言したので、二人はひそかに逃れ、とくに末宗は兵火のあと恵林寺にもどり寺の復興につとめた。二人の弟子を逃したとき、あの有名な

一句を誦し、火定に入ったので、末宗らによって、この火定の生々しい光景が伝えられたのであろう。

三門の左手かたわらに、その殉難



武田信玄の墓

の人々の慰霊塚がある。快川が国師号を得たのは、天正9年(1581)のことで、正親町天皇より天下の師表(※)と評価され「大通智勝国師」の称号が贈られたのである。その肖像画が恵林寺に残されているが、その風貌にはいかにも泰然自若とした傑僧の面影がにじんでいる。

上野 晴朗：1923年山梨市生まれ・歴史家・作家・県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る著書に「甲斐武田氏」等多数



ハートフルスタッフ本社の太陽光発電

太陽光発電システム、公園施設の設計施工を通じ、安全で快適な社会づくりに貢献しています。

みんなが利用する公共の空間では、人を安全に導き、スムーズな流れをつくる、区画線や標識、案内板などの存在は欠かせません。ロードは、市街地や観光地で見かける施設・設備を手掛け、交通と人の安全確保に努めています。また、公園施設の施工やモニュメントの設置などを行ない、環境整備から地域のイメージアップまで、街づくりの全領域にわたって活動。私たちのデザイン力と技術力が随所に発揮されています。昨今、自然エネルギーとして太陽光発電が高い評価を得るなかで、太陽光発電システムの設計施工にも取り組み、地球環境改善の一助を担っています。



市川三郷町 ふれあいの森公園



株式会社ロード

〒400-0853 山梨県甲府市下小河原町262番地
TEL : 055-241-6161 (代) FAX : 055-241-6118



コース脇に姿を現した白黒まだらの雪鳥



雲遊ぶ仙丈ヶ岳の稜線

小仙丈ヶ岳の肩で見た北岳と富士山

せんじょう が だけ 仙丈ヶ岳 (3033m)

南アルプス市

写真・文：上野 巖

山梨の北西の端、長野との県境に位置する仙丈ヶ岳は、遙かな山であって甲府盆地方面からは、ほとんど見えない。それに南アルプス林道がまだ通行不能の春先は、長野県伊那市からの昔のルートで入るしかない。

旧長谷村の古い登山基地、戸台までは車が入る。そこから延々と戸台河原を歩き、八丁坂を登って北沢峠まで。夏期ならバスで到達してしまう所だ。峠の小屋は4月下旬から営業する。

峠から西に向かってシラベやコメツガの中のルートに入る。5月連休頃だと、最初から雪を踏んでの登りとなる。だんだん傾斜が増す樹林の中でときたま左に見える北岳の雄姿は見事だ。

五合目でしっかりアイゼンを着け、もうひと頑張りで森林限界。小仙丈ヶ岳への広い雪の斜面を登りながら振り返れば、摩利支天を右に従えた甲斐駒ヶ岳

の全容がある。小仙丈の稜線からは、南に我が国の標高一位の富士山と二位の北岳が並んで見える。ここでしか見られない貴重な山岳景観である。

わずかに下がり再び広い斜面を登り、左から右にやや狭くなった尾根を慎重に辿れば、3,033メートルの仙丈ヶ岳頂上だ。360度の大展望が待ち受けている。

雪の斜面の下りは、登り以上に気を付けなければならない。雪山での滑落事故は、大部分が下山時に起きているからだ。近年数は減ったが、運がよければ小仙丈の稜線で白い雷鳥を見ることが出来るかも知れない。



【参考タイム】	戸台	北沢峠	小仙丈ヶ岳	仙丈ヶ岳	北沢峠	戸台
	→	→	→	→	→	
	6時間30分	4時間	1時間30分	3時間30分	5時間	



塩山温泉郷の玄関口

とある。関東の側から言えば、街道中の急坂を下りきったところ、甲州の側から言えば、これから急峻な上にさしかかる

「五月より八月迄、近在遠所入湯之者大概壹ヶ年一万人」

とある。関東の側から言えば、街道中の急坂を下りきったところ、甲州の側から言えば、これから急峻な上にさしかかる

BOOK

すばらしい本との出会い

曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」は、江戸時代の説本で、歌舞伎でも演じられ、浮世絵にも描かれ、今日にいたるまで人気を集める。「正義は勝つ」という痛快な物語であり、不思議な玉を持つ八犬士が登場し、苦難を乗り越え、超人的な働きで悪人をこらしめ、理想の国家を目指していく。



曲亭馬琴 石川 博 編
角川ソフィア文庫 ¥820

八犬士は体のどこかに牡丹の形のあざがあり、水晶玉を身につけている。甲斐国にも犬塚信乃が訪れ、幼時、驚にさらわれ、てきた姫と出会う。また、殺人犯に仕立て上げられ、無実の罪にお

としいられるところを、武田の代官に救われたりもする。信乃を手引きするのは石和に根城をもつ犬山道節で、領主・武田信昌も活躍する。

本書は、原文と訳文に振り仮名を付し、図版も加え、誰にでも読め、わかりやすく、面白い。解説もコラムも親切で、また、登場人物小辞典も工夫され、物語の舞台も地図で紹介されている。編者はMUHの「対談」にもご登場いただいた石川博氏。

塩山温泉（甲州市）

大菩薩峠の往来で利用された温泉

JR塩山駅から温泉まではかなりの上りだ。ここから袖切坂を過ぎると、青梅街道は大菩薩嶺に向けてさらにぐんぐんと高度を上げてゆく。

塩山温泉の歴史は古く、康暦二年（一三八〇）八月十五日、向嶽寺の拔隠禪師の発見と伝えられる。寺領に湧き、門前百姓が管理する寺の施療院の分院（リハビリセンター）として利用された。二〇度の赤褐色の鉱泉は冷えや皮膚病によく効いた。ここは甲州では珍しく「信玄の隠し湯」ではなかった。

江戸も中期、享保の頃の記録には、「五月より八月迄、近在遠所入湯之者大概壹ヶ年一万人」



周辺の観光地を指す案内

位置だ。せいぜい葦簀のどかな湯畑の客は湯治の者ばかりではなく、旅人の立ち寄りも少なくなかった。幕末の国学者で狂歌師の黒

福岡 哲司

ふくおか てつし
昭和十二年生まれ
「野伝」深沢七郎「ソング」で開高健賞奨励賞
「近代山梨の光と影」山田三郎「ライブラリー」

袖萩祭文

笹子追分人形復活上演

そではぎさいもん

劇作家

水木 亮

昭和十七年生まれ 早大卒
劇団「メロデー・オフ・イースタデー」主宰
小説「祝祭」で第十八回織田作之助賞

「ばちも慮外も顧みずお願い申し奉る。今の、憂き身の恥ずかしさ。父上や母様のお気に背きし報いて、二世の夫にも引き別れ、泣き潰したる目なし鳥」

盲目の女性袖萩が、雪の舞う戸外で三味線に乗せて、自らの身の上を親に語る「奥州安達ヶ原」三段目「袖萩祭文の場」の有名な口説きの語りである。

前回猿橋子供歌舞伎の上演を紹介したが、笹子の追分人形も「大月の芸能を育む会」がきっかけとなり、平成十七年十一月に大月市制施行五十周年を記念して「朝顔日記」の一部を上演した。さらに十八年三月には「朝顔日記」を通して上演し、十九年四月一日には大月市民会館で「奥州安達ヶ原」三段目「袖萩祭文の場」を上演した。

「袖萩祭文の場」は歌舞伎でもよく取り上げられる。親に勘当され、男には捨てられて今は盲目となり、さ

すらい人となった袖萩という武士の娘が、父親が事情で切腹しなければならぬことを知り、子供お君と両親を訪ねる。しかし、父親は娘を許さな

い。袖萩は雪の降る門の外で三味線を弾きながら自分の不幸を語る。母親も袖萩を助けたが父親が切腹しなければならぬ原因の元が袖萩の元夫にありどうすることもできない。このような親子の確執を描く。

追分人形は伝承の中心であった、天野宗光さんが病気で倒れたために、長く公演できなかった。そこで伝承も危ぶまれていただけに、「大月の芸能を育む会」の企画は幸運であった。

時代を経て、人形の頭も衣装も古くなる。笹子ではそれらを新しく製作している。今回も袖萩の人形の頭を新しくしており、なかなかいい頭で美しい。これを遣っている天野新一さんは一座の五代目に当たる。研究熱心で数年前に帰郷して人形に取り組んでいる。

私は前日のリハーサルの日から稽古を見ていたが、舞台は冷え冷えとしていた中で、ライトに当てられて熱演する遣い手達の額から汗が舞台にほとほと落ちていくのを見た。精進の甲斐があり、とてもいい舞台であった。村に伝えられた伝承に情熱をかける人々がいる。気持ちさがさわやかになるひとときであった。

「写真祭文を語る盲目の袖萩を遣う五代目座長天野新一

伝奇小説の傑作

「南総里見八犬伝」

曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」は、江戸時代の説本で、歌舞伎でも演じられ、浮世絵にも描かれ、今日にいたるまで人気を集める。「正義は勝つ」という痛快な物語であり、不思議な玉を持つ八犬士が登場し、苦難を乗り越え、超人的な働きで悪人をこらしめ、理想の国家を目指していく。

としいられるところを、武田の代官に救われたりもする。信乃を手引きするのは石和に根城をもつ犬山道節で、領主・武田信昌も活躍する。

八犬士は体のどこかに牡丹の形のあざがあり、水晶玉を身につけている。甲斐国にも犬塚信乃が訪れ、幼時、驚にさらわれ、てきた姫と出会う。また、殺人犯に仕立て上げられ、無実の罪にお

としいられるところを、武田の代官に救われたりもする。信乃を手引きするのは石和に根城をもつ犬山道節で、領主・武田信昌も活躍する。

ふるさとの歌と芸能をたずねて



前回は北斎の「富嶽三十六景」から富士川の裏不二をとりあげたが、今回も浮世絵家安藤広重のものをとりあげる。広重といえば「東海道五十三次」で知られている。甲州と広重といえば甲府柳町の道祖神を描いた人といわれるが、広重と甲州となると、甲府への旅日記はあるが絵にしたものとなると数少ない。

甲州道中関係では猿橋の二枚絵のものが有名である。その他に大月を描いたものもあるが、東海道や木曾街道のようなシリーズ物が少ないのは残念である。

今回とりあげた五十三次は、天保三年（一八三二）広重三十六歳の夏、幕府が朝廷へ献上する「八朔御馬献上」の行列に参加し、京へ上ったがその時の見分が「東海道五十三次」のもととなったといわれている。日本橋を出発して京へ到着するまでの東海道各宿場五十次の町場や途中の風景、人々の生活を、最初の日本橋と上りの京都五条大橋まで五十五枚の浮世絵で表現している。実際に旅をしているのでいろいろな風景が描かれており、当時の旅風俗や運送方式など参考となることが多い。

今回この五十五枚のうちの藤枝（ここは大井川の嶋田宿の隣り現在

の藤枝市）をとりあげる。「東海道五十三次」は、評判になるとともに多くの版で売り出されたが、今回は一番しられている「保栄堂」版をつかった。藤枝と書かれた題名の横の朱印に「人馬継立」とあるので問屋（いや）場風景と判かる。多人数が一団となっているので、人物に番号をつけたので絵の役にはならないが、ご了承願うとして①は「挟み箱」又は「両掛け」でかつぐ人の前と後に

広重「東海道五十三次」に描かれた小荷物運送

林 陽一郎

はやし よういちろう
甲府市教育委員会文化振興指導員
山梨郷土研究会



箱をつけ、テンピン棒でかつぐ箱には、手近で使う衣料や手帳など身の回り品を入れる。箱が黒色なので皮の覆いをかぶせてある。②はわかりづらいが「跡附」といって桐材で作られた細長い引き出し、差し料（刀）を入れて運ぶ。旅では道中差しといって旅専用の刀を差していた。③は馬に乗せる荷物、馬の両側と背中に乗せる。これを本馬といって四拾貫（約百三十キロ）の荷をつける。④は長持、一丁の重さ三拾貫の長

持を一人五貫目の見当でかつぐ。よって一丁を六人で運ぶ。この絵では二人なので拾貫の荷となる。⑤は藤沢宿の馬や人足を手配する馬指役と思われる。⑥は⑦にも同じような人が帳面を持って話しているが、この人は着物をハシ折り、刀をさし、わらじをはいているので問屋の人ではない。⑦の笠をかぶっている老人が旅の主役である。その後⑧の従者がいる。すると⑥は⑦の武士が旅の指配を頼んだ人なのかもしれない。⑨は問屋場の役人、一段高いところで全体をみている。この絵は岡部宿から京へ行くのか、島田から江戸へ下る一行かいずれにしても藤沢の宿に到着した時を見事に描きあげている。馬や荷物は足早に進むが年老いた主人は従者とともにゆつくりと歩いて到着した。人足達はすでに汗をふいたり、一服つけたたりしている時の経過を描いたところは広重のうまさか。五十三次というように当時の旅人は、宿場に着くとそこで馬や人足を新たにやとい、次の宿場へ行くこととなっていた。そのたびに馬から荷を降ろして新しい馬につけるという手間がかかったのである。

小規模多機能型居宅介護

家庭的な環境の下でのサービス提供により認知症症状の緩和を図ります。

基本理念

お年寄りの気持ちに向き合い、寄り添う
24時間365日、切れ目なく暮らしを支える
お年寄りが望む暮らしができるよう、支援の内容を調整する

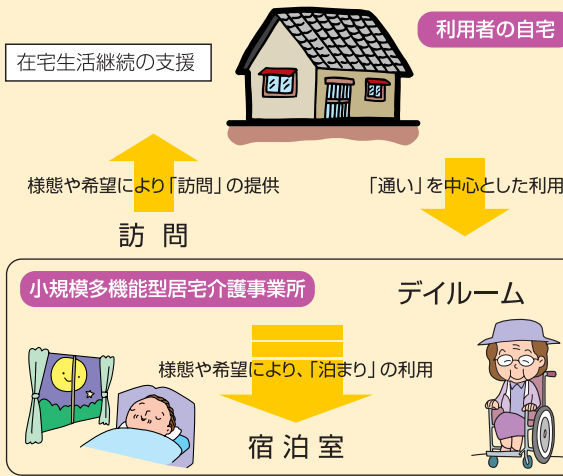
対象者:地域にお住まいの介護認定者

特 徴

- 1.一人ひとりに向き合い、気持ちに寄り添う
- 2.本人が気持ちに折り合いをつけていく支援
- 3.1日の生活がスムーズに流れる支援
- 4.家族や地域社会とのつながりを断ち切らない支援
- 5.自分の家や地域社会から切り離さない支援
- 6.生きる力(人としての誇りや意欲)を奪わない支援
- 7.なじみの関係を築いていく支援
- 8.家族や地域社会との関係を調整する支援



ご利用者のニーズに合わせたご活用方法



山梨県甲府市上石田1-7-14

介護に関するご相談は

TEL055(236)6210

<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>



在宅介護サービス

株式会社 やさしい手甲府

人材派遣

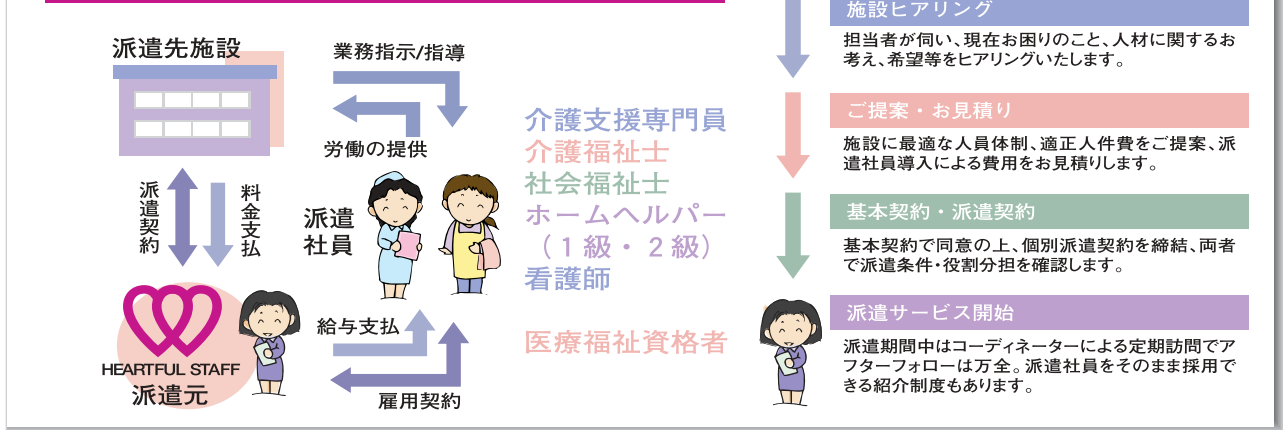
人材派遣とは

働く人が直接施設に雇用されるのではなく、派遣社員として派遣会社と雇用契約を交わし、その派遣会社と派遣契約を結んでいる施設に派遣され、そこで業務指示を受け仕事をするシステムです。よって雇用上の責任は派遣会社が、業務指示についての責任は派遣先が負うことになります。

派遣のメリット

- ・電話1本でスタッフの補充が可能
- ・期間限定の採用ができる
- ・適正な人員配置
- ・マッチングの悩みが解消
- ・優秀な社員が採用できる
- ・職場の活性化に寄与
- ・人事関連業務を簡素化できる
- ・業務単位での請負も可能
- ・短時間の派遣も可能

人材派遣の仕組み



ハートフルスタッフは、介護・福祉・医療分野に特化した人材派遣業と職業紹介業を行っている会社です。



派遣に関するお問合せは TEL055-236-0123 甲府支店まで

お孫さんと一緒に楽しむ、のんびり車の旅

武藤 幸雄さん（笛吹市）



愛車VOXYと営業の小細澤さん

今回訪れたのは、20年以上にわたりトヨタ車ユーザーという武藤幸雄さんのお宅。ガレージからは現在の愛車であるVOXYが顔をのぞかせている。

「トヨタ車はもう10数台乗り継いできています。車の乗り心地はもちろん、何でも安心して任せておける営業マンの存在が大きいですね。本当に面倒見がいいので、助かっています」とご主人。奥様も「前任の営業さんは20年以上のおつきあいで、息子のような存在でしたね。つい最近新しい営業さんに引き継がれたんですが、これからも変わらずいいおつきあいをしていきたいですね。それにやっぱり車がいいですね。運転できない私も新車が出たなんて聞くと、見たくてすぐに見にいってしまふんです」とほほ笑む。

数年前まで、開業医集団の事務局長として、理事会の会合で毎月数回、全国各地に出掛けていたそうで、その足として20数年前に選んだハイエースのリミテッドが、初めてのトヨタ車だったそう。走行距離は最初の車検を迎える前に5万キロをゆうに超え、毎回車検前には買い換えていたそうで、ハイエースだけで10台近く乗り継いだという。

「大阪や京都、名古屋はあたり前で、北は青森、南は四国まで車で行っていましたからね。やはり長距離を運転するには安定感があって、疲れな車がいいですね。ハイエースはとにかく走りやすく、気に入っていました」。

現役を退いてからは、そこまで遠くに出掛けることはなく

なったが、奥様やお孫さんと一緒に旅行に出掛けることが多いそうで、そんな時にはVOXYが大活躍している。

「孫の休みに合わせて、長野や箱根、栃木、福島などに出掛けています。自分たちのペースでゆっくりと観光して、のんびり温泉につかって楽しめるのも、車で出掛ける旅だからこそですよ。VOXYは見た目以上に中が広くて、家族みんなで乗ってもゆったりでき、足回りもよく、気楽に乗れる車です」と満足そうなお主人。

奥様も車で出掛ける旅を楽しんでらっしゃるそうで、「孫は温泉も大好きで、私と主人が出掛けるという、いつも付いてくるんですよ。ゆったりできる車なので、愛犬を連れて出掛けることも多く、本当にのんびりと旅行ができますね」と楽しそうに話してくれた。

暖くなるこれからは、ドライブがますます楽しくなる季節。春休みもお孫さんと一緒に旅行をする計画だそうで、「福島から安達太良のスカイラインを越え、松島を抜けて裏日本の方をドライブしたいと思っています。またまたVOXYが大活躍してくれますよ」といい笑顔を見せた。

快適に走るVOXYに、お孫さんの笑顔と楽しい会話をのせ、ぜひ楽しい旅を。



気さくに取材に応じてくれた武藤ご夫妻

庭も含めベストバランスの、美しく快適な家

市川 善彦さん宅（甲府市）



昇仙峡ラインから少し脇に入った閑静な住宅地。ゆるやかな台地に洋風のエクステリアがひととき目を引く家がある。（株）トヨタレンタリース山梨にお勤めの市川善彦さんのお宅だ。レンガ積みの外構にパンジーの咲く庭が、淡い色の外壁と見事に調和している。「生涯健康住宅」を唱えるトヨタホームのシンセ・レゾン。敷地面積108坪、建坪48坪。昨年11月に完成した。

玄関から入ってまず、書斎の隣、リビングの広さに驚く。白を基調とした中に黒革のソファやダークブラウンの家具がセンスよく配されている。自然光のたっぷり降り注ぐ気持のよい空間だ。「家族が集まり、くつろぐ場所なので、一番こだわった」とご主人。その横で奥様も「対面式のアイランドキッチンを見ながら食事の支度ができますし、隅のテーブルでは書き物やアイロンがけもできます。自分専用の空間があるのはうれしいですね」と話す。リビングと続きのダイニングは見晴らしも抜群。大きな窓から富士山を眺めることができる。何とも贅沢な食卓だ。

オール電化も快適さをさらに高めた。お風呂はスイッチひとつ、自動で保温やおいだきをしてくれるので、娘さんが帰ってきてもすぐ温かいお湯に入れるそう。また、この冬は冷え込む日が続いたが、家の中が10℃以下にはならず、



洋風なアプローチの玄関前で



広くて、シックにまとめられたリビング

朝もののびのび目覚めることができたという。トヨタホームのハイブリッド外断熱工法が、冬は暖かく、夏は涼しくという理想の室内環境を実現してくれるのだ。住んでみてから実感できた数々の喜びに、家を建てた満足度も大きい。

市川さんにとって家とは？とお聞きすると、「帰りたくなる場所ですね」と即答された。

同じガーデニングの趣味を持つご夫妻が、最近気にかけているのは、庭。サルスベリやシャラの木が植えられ、芝生を敷きつめた庭は、色鮮やかなお花が咲き、あるときは家族の癒しの場に、あるときは愛犬ミニチュアダックスのドッグランになる。日当たりの良いこの場所で、これからますます家族の笑顔が花のように咲き誇るだろう。



なごやかな市川ご夫妻

INFORMATION

今、乗っているクルマから…

新車に乗換たら 年間の維持費が 安くなりました。

ガソリンが高騰しているのに、なぜでしょう？



ガソリンが高騰しています。燃費が悪くて困っていました。燃費の良いクルマに交換したら月々の負担が約5,000円も軽くなりました。

クルマは古くなるとパーツ交換などメンテナンス費用がかさみます。新車なら当然心配ないし初回車検までをセットしたお得なメンテナンスパックもあるんですね。

イモビライザー（盗難防止装置）などを装備することで自動車保険が割引されるなんて知りませんでした。

ネットトヨタ甲斐（株）
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL055-232-5511

高齢者交流施設安心ギャラリー



銀座街の駅『安心ギャラリー』は、協同組合山梨安心サービス(やさしい手事務局)が運営しております。毎月、高齢者向けに楽しいイベントを開催しております。特に、第2土曜日は、組合部会主催のイベントを行っております。〈癒しの音楽祭・新鮮野菜販売等〉
また、『安心電話』にご登録いただければ、常に相談員が待機しておりますので、お気軽にご相談ができます。(平日9:00~17:00 TEL.055-232-0808)
イベントや安心電話についてのお問い合わせは、下記までお電話下さい。

銀座街の駅1F『安心ギャラリー』 甲府市中央4-3-14
TEL.055-231-6632 <http://www.y-anshin.jp/>

(株)やさしい手甲府 本部：甲府市上石田1-7-14
TEL.055-236-6210 <http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

比べてください。鉄骨ラーメン構造が、
本物の「強さ」と「自由」をお届けします。



トヨタホームの鉄骨ラーメン構造は、一つひとつが十分な強度を持つユニットの集合体。まるで、家全体がすべて大黒柱でつくられているイメージです。地震に強い上、柱や壁の制限を受けにくいから、大空間や大きな窓も思いのまま。トヨタホームの鉄骨ラーメン構造が本物の「強さ」と「自由」を実現します。

トヨタホーム山梨（株） 本社：中巨摩郡昭和町河西1043
TEL055-275-1234 FAX055-275-7806 <http://toyotahome.mediagalaxy.ne.jp/yamanashi>

HEARTFUL STAFF 本社・甲府支店 移転しました HEARTFUL STAFF

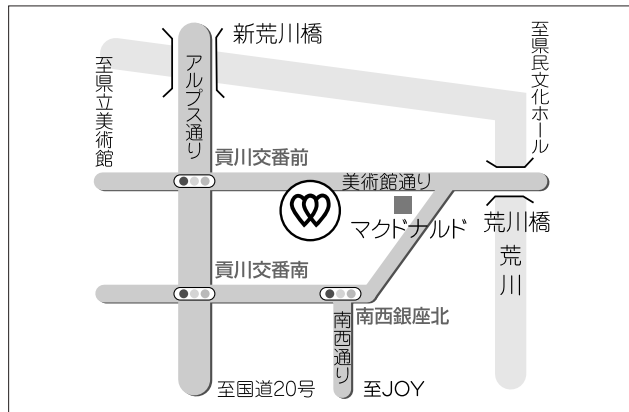
平成20年3月1日より、
本社・甲府支店が合同新社屋へ移転しました。



新住所・新連絡先

甲府市上石田1-8-20
(やさしい手甲府本部敷地内)

本社：TEL.055-236-5552
甲府支店：TEL.055-236-0123



(株)ハートフルスタッフ 山梨県甲府市上石田1-8-20
TEL.055-236-5552 <http://www.hf-staff.jp/>

INFORMATION

安全性優良事業所に更新認定される

貨物自動車運送事業者は、規制緩和に伴う競争激化、荷主のニーズの高度化で、今まで以上に「安全性」が重視され、優良な事業者が選ばれる時代になった。全日本トラック協会は2003年7月、安全性優良事業所認定(Gマーク)制度をスタートした。

目的は、利用者がより安全性の高い事業者を選びやすくするための環境整備を図り、事業者の安全性を正に評価、認定し、公表することにある。シンボルマークの「G」は高い評価を得た事業所に与えられる安全性の証で、当社はスタート時以来3回目の更新認定事業所となった。全国では新規、更新を含め9730事業所がGマークを取得している。

認定は、全国実施機関と安全性評価委員会が評価を行う。

①安全性に対する法令遵守

②事故や違反の状況

③安全性に対する取り組みの積極性

を41項目に分け、100点満点でそれぞれの基準点を満たし、合計80点以上になることが必要。

Gマークの取得は、荷主からの要請もあり、同業他社との差別化、安全対策向上のため重要性を増している。最近では、地方の中小規模の荷主もGマーク取得の有無を事業者選択の際に考慮している場合がある。

さらに今後、当社では交通エコロジー・モビリティ財団が行っているトラック事業者向けのグリーン経営(環境負荷の少ない事業運営)の認証取得を進めていて、競争が激しい運送業界の中でも特色を生かした事業経営を目指している。



甲府通運(株) 本社：中央市山之神流通団地3329-9 TEL055-273-0611



ロードは安らぎと憩いをもたらす遊具の設置を
公園や公共施設に提供しています。



映画のロケーションにも
つかわれています。

映画「休暇」
画像：<http://eigakyuka.com/>

ROAD

(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代) FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

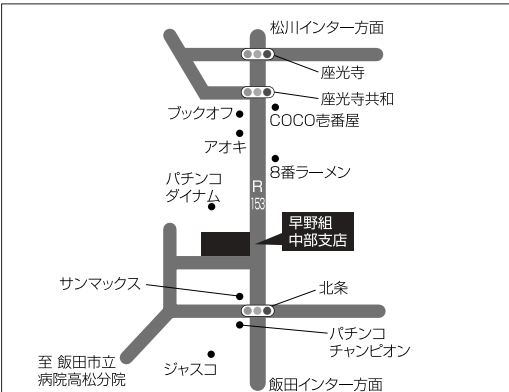
事業所移転のご案内

この度当社では、「中部支店」「岐阜営業所」「静岡営業所」三事業所を下記のとおり移転致しました。今後とも一層のご支援、お引立てを賜りますようお願い申し上げます。

各事業所移転先住所

- 中部支店 中部支店長 立川 正文
〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼1438-1 ダン・イナガキ1階
TEL.0265-22-3969(従来通り) FAX.0265-52-2171(従来通り)
- 岐阜営業所 岐阜営業所長 水野 祐司
〒509-5122 岐阜県土岐市土岐津町土岐口2087-1 ドリームマウンテン1階A号室
TEL.0572-55-2834(従来通り) FAX.0572-55-0817(従来通り)
- 静岡営業所 静岡営業所長 野田 満
〒436-0026 静岡県掛川市下俣南2-3-20 ハカマタハイツI 10105号室
TEL.0537-22-1301(変更) FAX.0537-22-1302(変更)

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111 <http://www.hayano.co.jp>



エストテニスクラブ

県下最大のインドアテニススクールで、
充実のスポーツライフを

シャラポワや錦織圭選手で、何かと話題性の高いテニス。山梨のテニス環境を他県に負けないように創造したい、という願いで活動しているグループがある。1980年に、富岡プロが立ち上げた「エストテニスクラブ」。コートにクラブハウスがついていて、ショップも充実している、という点がテニス愛好者にとっては一番の魅力だ。

甲府の他、八田や明野、若草に拠点を広げ、現在、クラブ会員250名、スクール会員1500名を抱える。中でもスクールはジュニアの4歳から一般の70代まで幅広い年齢層に渡り、初心者から大会出場をめざすプレーヤーコースまで、豊富なクラス設定が特徴だ。インドアで行うスクールは、かなりの天井高があるため、ロブを上げて天井に当たることを気にする必要がまずない。コーチは当スクールのジュニア出身で15名が在籍。たとえば一人で来ても必ず相手をする充分な体制が整っているし、個々に合わせたレッスンをしてくれる。

取材担当の石川さんによれば「テニスはコー

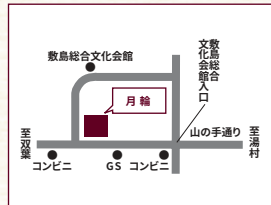


トにどれだけ戻すかが勝負。長い期間続けている人の方が強い」とか。また、個人プレーなので(ダブルスは別)頭も使い、試合中にミスしても早く立て直しができることが求められる。「その点、人生経験の豊かな年齢層はジュニアに比べてはるかにコーチの指導を消化しやすい」そうだ。

何も持たなくてもここに来ればすべて揃うというショップは、3月にリニューアルしたばかり。彩り鮮やかなユニフォームやシューズが目移りしそうなほど並んでいる。新しい春、体にいいことを始めたいなら、お気に入りのウェアに着替えて、楽しくおしゃれに汗を流す、エストテニスクラブはいかが。



営業時間 10:00～23:00 (月～金曜)
9:00～21:00 (土曜)
8:30～18:00 (日曜)
定休日 なし
所在地 甲府市里吉3-8
TEL 055-232-4030
URL www.estclub.co.jp



営業時間 11:00～14:00
17:00～22:00
(※昼、夜ともに完全予約制)
定休日 不定休
所在地 甲斐市島上条632-1
TEL 055-277-3303

創立から変わらぬ「愛情教育」 それは豊かな人間性を育むこと

学校法人 駿河台西学園

駿台甲府小・中・高校

公立高校の全県一学区制導入をはじめ、少子化に伴う学校の統廃合や「ゆとり教育」の見直しなど、学校教育ではさまざまな変革が進んでいる。そんな中、創設以来変わらぬ教育方針を貫くとともに、時代に対応したきめ細かい指導を展開し、高い支持を得続けている学校がある。駿台甲府だ。

学校法人「駿河台西学園」が運営する駿台甲府小・中・高校は、駿台予備学校や駿河台大学などを運営する全国組織の学校法人・駿河台学園を母体に設立され、今年で高校は設立28年、中学校は15年、小学校は6年を迎え、12年間の一貫体制を軸に、長期的視野に立った教育、人格育成に取り組んでいる。

グループの予備校のノウハウを取り入れた独自の教育に取り組み、毎年多くの有名大学合格者を輩出している駿台甲府は進学校として名高いが、山口博伸校長は「世間の進学校のイメージは学業中心、成績のいい生徒が中心とい



新装なった本館

うものでしょうが、駿台甲府では進学のための勉強ではなく、生徒の将来を考えた人間教育を基本にしています。また学習指導では、可能性を秘めている“学力上昇組”の生徒にも充分力を入れています」と強調する。

それは創設以来一貫している教育理念「愛情教育」と「チャレンジング・スピリット」に基づいた教育であり、1人ひとりを尊重しながら、何事にも果敢に挑戦していこうとする姿勢を育てるその教育精神は、モットーとしている「文武共存」にも表れている。

「部活動禁止という学校もありますが、勉強だけに偏るのではなく、できるだけ多くの経験をさせてあげることが、子どもの人間的成長につながっていきます。また子どもの成長ややる気はさまざま。だからこそ、その時々に応じた全力を尽くすこと、つまり『両道』ではなく『共存』が大切だと思います」。

山梨の教育に対する考え方を

変えていくのは駿台しかない

山口校長はまた、駿台甲府には中高一貫教育ならではの強みがあるという。「中高一貫で学んできた生徒はとても伸び伸びとして活発で、粘り強さがあります。6年間という長い時間の中で育まれた生徒ならではの強さを感じますね。それは成績の良し悪しではなく、踏ん張りの違いです。また小学校も今年で開校6

●駿河台西学園●

1979年に駿河台学園が甲府に兄弟法人として駿河台西学園を発足し、翌80年に甲府市塩部に駿台甲府高校普通科を創立。85年には美術デザイン科を設置、90年には普通科が男女共学に。93年に中学校創立、2002年には小学校を創立し、12年間一貫の教育システムを構築する。小・中学校と高校美術デザイン科は甲府市上井に、高校普通科は甲府市塩部に校舎がある。

〒400-0026 甲府市塩部2-8-1

Tel.055-253-6211 URL <http://www.sundai-kofu.ed.jp/>

年となり、12年間一貫教育体制も整ったこれからは、もっと楽しみです」。

一方で、そんな高い意識のある生徒に対して、親の教育に対する理念が弱いと指摘する。「山梨ではまだ公立への思いが強く、親の教育に対する視野が狭すぎます。もっと教育に対して意見を述べていいと思いますし、子供の長い将来を考えた真の学校選びが必要だと思います」と問題を提起し、「そんな山梨県民の教育に対する考え方を変えていくのは、駿台しかないと思っています」と胸を張る。

グループ唯一の一貫校として

人間的に優れた子を多く輩出したい

昨年には新校舎が完成し、また今年は母体である駿河台学園が創立90周年を迎える駿台甲府。山口校長は「駿台甲府の教育理念や指導方針などをもっと理解していただき、そして選んでいただけるよう、今年はさらに活動していきたいと思います。そして駿台グループ唯一の小・中・高校として、人間的に優れた子を多く輩出していきたいと思っています」と力を込めた。

まだまだ変革が続くだろう学校教育。その中で、駿台甲府はさらなる飛躍を目指し、これからも力強く前進していく。



山口博伸校長

かわうちじ
河内路

甲州と駿州を結ぶ古道、富士川舟運でさらに発展。

河内路は、戦国時代から江戸期にかけての呼称で、甲斐と駿河を結ぶ三本の古道のうち最も西側の道だ。河内は甲府盆地から南へ流れる富士川を挟む広域地の呼び方で、中世以降武田一族の穴山氏が領有していた。江戸期には行政区分の九筋二領のひとつであった巨摩郡に属す。府中(甲府)を発して布施(田富)―市川大門―黒沢―割石峠―岩間―西島―下山―南部―万沢と下る。そして駿河の内房を経て由比で東海道と接する。

この河内路がいつ頃開かれたかは、平安～鎌倉時代の歌人西行法師の伝説が旧富沢町にあるなど、平安時代には主要路であったと思われる。



布施の辻屋(田富町)

また日蓮上人は文永11年(1274)、今の静岡県富士宮市から富士川を渡って南部から身延に入山したことが判っている。近世には河内路は「身延路」としても身延山への参詣路として栄える。

また「駿州往還」とも呼ばれ、慶長12年(1607)、徳川家康の命によって角倉了以が富士川を開削、慶長17年(1612)富士川舟運が開始されると舟運中心の輸送となり河内路も布施から鰍沢に至り、切石(旧中富町)で古道と合いそのまま南下、万沢からは興津に至る道もあった。

鰍沢を経由するようになると、鰍沢宿から甲州道中の葦崎宿、さらに信州と結ぶ佐久往還とつながって「駿信往還」となる。河内路は富士川舟運とともに、逸見、武川地方の年貢米などの輸送路として、また富士川舟運による交易品など物流の往来で、甲州と駿州を結ぶ大動脈となった道筋である。



鰍沢宿(昔日の繁栄を語る下宿の商家)



万沢宿の口留番所跡

某月某日

子供の頃からの英語教育は本当に必要か？

×月×日

以前このコラムで「小学校の英語教育は必要か?」ということを取り上げたが、その続編とっていただいてかまわない。私は、小学生以下の子供に英語を教えてもあまり意味がないと思っているので、そのことについて最近感じることを書いてみたい。

現代社会を生きてゆくうえで英語は必要である。例えば、日本社会の閉鎖性や近年の人材劣化を話す時、決まって「日本人はやはり英語ができない」という欠点が指摘される。ビジネスの世界では必要な事が多いし、できないでは済まされない場合が多い。契約書も英語、会議の資料も英語、発表者も英語を話し、質問も英語というのは当たり前だったりする。

そこでは、決まって「日本の英語教育は中高で6年もやっているのに、だらしない…」という議論となる。「日本人が発音下手なのは、内向的な人間性と英語教育が受験に偏っているからだ」とか。これらの論はすべて一面では真実だが、本質は突いていない。

私も3歳の子供がいるが、「だから子供の頃から発音の練習が必要なの…」というふうに迫られるとげんなりする。発音なんて、馬鹿らしい。わたしは自慢ではないが、話している英語でどの辺りの出身者かも想像できる。外国に長く住むということとはそういうことである。日本人なら津軽弁を聞くと「ああ東北の人かな」と思うのに似ている。

いわゆる「流暢に英語を話す」ということは、決して難しい事では

ない例を挙げよう。偶然にテレビで『郷ひろみ』さんの英語インタビュー番組を見て唸った。私の世代にはその名前は懐かしいが、彼の英語の流暢なこと、アメリカやイギリスで「お偉いさん」に日本語訛りの英語で無理やり会話しているジャーナリストや政治家さんたちよりよほど上手い。意思疎通を図るというレベルだけで考えたなら、元アイドルの英語のほうが、東大出の官僚よりも上手である。

一般に歌手・俳優といった人たちの英語は流暢で上手であるが、その理由は2つある。ひとつは、彼らが周りからみて自分がどのように見えるのかを判断する第三者の目を持っているという事、もうひとつは、本当に必要に駆られて自己表現の一種として外国語をしゃべっているという事である。表現のプロである彼らは、外国語を驚くべき速度でマスターする事ができる。歌舞伎の勘三郎がニューヨークで公演したのを見ると良い。

勘違いしないでいただきたいが、英語は現代では必要であり、自己表現の手段としてマスターしようとするなら成人になってからでも可能である。子供の頃正しい英語を聞かされていなかったから発音が悪いという事はなく、発音を良くする必要がなかった(周りも発音が悪い)だけである。3歳児を外国で育てると驚くべきスピードで外国語をマスターするが、帰国後すぐに忘れてしまう、と言われている。それでも幼児・児童の頃から英語教育が必要ですか？

[文:杉村 聡]